

生き生き 韓国文化

VOL.35



2月

韓国のコーヒー愛

韓国のコーヒー・カフェ文化

韓国人のコーヒー愛

韓国は単にコーヒーが好きな国というだけでなく、コーヒーとカフェが文化の重要な一部として根付いている国です。朝の通勤時にはテイクアウトのコーヒーを片手に職場へ向かい、ランチの後には同僚とコーヒーを飲みながら短い会話を楽しみ、そして夕方にはカフェで作業をしたり、本を読んだりする光景は韓国ではごく当たり前の光景です。

韓国人の1人当たり年間コーヒー消費量は約405杯であり、世界平均の152杯を大きく上回っています。フランスに次いで、世界で2番目に多いコーヒー消費量を記録しています。

生活必需品としてのコーヒー

韓国人にとってコーヒーは生活の一部であり、朝の通勤時にはテイクアウトのコーヒーを、ランチの後にはデザート感覚でコーヒーを楽しむことが日常となっています。また、オフィスではミックスコーヒー（韓国独自のインスタントコーヒー）を頻繁に飲む文化も根付いています。



一年中愛されるアイスアメリカーノ

特に、アイスアメリカーノは季節を問わず人気のある代表的な飲み物です。雪が降るような氷点下の寒さの中でも、多くの韓国人はホットではなくアイスを選びます。

韓国のカフェ文化

韓国は世界的に見てもカフェの数が非常に多い国の一つであり、その密度の高さが特に際立っています。ソウルの繁華街では1ブロックごとに複数のカフェが並ぶほどカフェが生活に密着しており、地方都市や観光地でもフランチャイズカフェや個人経営のカフェが共存しています。統計的に見ると、韓国では人口500人あたり1軒のカフェが存在します。一方、日本は人口1,200人あたり1軒の割合であり、この差からも韓国のカフェ文化の特徴を感じ取ることができます。

韓国の定番のデートコース、「食事→カフェ→映画」

韓国では誰かに会う際に「食事→カフェ→映画」というコースが定番となっています。カフェは単にコーヒーを飲む場所ではなく、会話をする場所としても認識されています。また、韓国のカフェ利用者の平均滞在時間は約1時間24分であり、日本の一般的なスターバックスの利用客が30分～1時間程度であるのと比べると、韓国人はカフェでかなり長い時間を過ごすことが分かります。

분종카 (ブンジョッカ) とは

韓国はカフェの数が多く、競争が非常に激しいため、各カフェは独自性を出すために独創的なメニューを次々と開発しています。一時期、日本でも話題になった「ダルゴナコーヒー」のように、流行のメニューを積極的に取り入れるだけでなく、各カフェごとにシグネチャーメニューを開発することも珍しくありません。

さらに、インスタ映えのための写真スポットを設置し、おしゃれなインテリアを取り入れることはカフェの必須条件になっています。その結果、最近では「분종카 (ブンジョッカ)」という新語も生まれました。これは「분위기 좋은 카페 (雰囲気の良いカフェ)」を略した言葉で、インテリアにこだわったカフェを指します。